

## 地域の顔～教育ボランティアとしての関わり～

須磨区菅の台地区 教育ボランティア 藤原邦子さん

私は今年2月に地区の民生委員さんから「ボランティア活動をやってみませんか？」とお声を掛けて頂き、初めて神戸市看護大学の取組みを知りました。そして、2月に教育ボランティアとして実習に参加し、3月の教育ボランティア交流会にも参加させて頂きました。

伺った神戸市看護大学は自然豊かで美しく、お優しい先生方、学生さん達がいらっしやる素晴らしい大学でした。以前通っていたシルバーカレッジの取組みによるS.P(Simulative patient)の活動で、神戸大学、神戸薬科大学等に行かせて頂いたことがありました。医学部、薬学部、看護学科の学生さん達の練習台となり、患者さんとの接し方を学んで頂くことを目的とするものでした。今回の神戸市看護大学でも、普段なかなか話す機会がない大学の先生方や学生さん達と触れ合いながら元気を頂き、学ばせて頂くことも多く、楽しいひとときを過ごすことができました。

今後、神戸市看護大学もこのような取組みを通し、私達近隣住民とつながり、安心を与えて下さることを本当に嬉しく思います。参加無料の「まちの保健室」のことも、この度初めて知りました。このところ、もの忘れがひどく、「もの忘れ看護相談」に参加させて頂きたいと楽しみにしております。

神戸市看護大学のCOC事業がより広く、多くの人々に伝わり、若い学生さん達や先生方と共に健康で幸せな地域となりますように、私も元気なうちに今自分に出来ることから少しずつでも参加させて頂き、励んでいきたいと思っております。



筆者が参加した  
「教育ボランティア交流会」  
教員と教育ボランティアさんとの  
グループワークの一幕

## 地域づくり・健康づくり～社協から～ 住民のみなさんと考える“地域福祉の担い手支援”

須磨区社会福祉協議会 地域福祉ネットワーク 榎一美紀さん  
2025年には4人に一人が75歳以上の超高齢社会が到来するといわれる中で「地域福祉の担い手不足」は大きな課題の一つです。しかし、地域の福祉活動がなされていないかというところと全くそうではありません。住民主体で行われているボランティア活動の裾野は広く深いものです。

須磨区社会福祉協議会では「地域福祉ネットワーク事業」として、地域で長く取り組まれている「ふれあい給食ボランティア」や「友愛訪問ボランティア」等の地域福祉活動について振り返り、次世代の担い手について考える場を持ちました。取り組みについては「私たちの須磨!～顔の見える地域づくり～」と題して報告会を開催し、ボランティア活動者を中心に、行政・専門職・社協など様々な立場の参加者が約200名集まり、地域福祉の担い手支援について考えました。その際の提言をまとめたものをご紹介します。

①「地域にとって必要な活動」、みんなが（受け手も担い手も）「楽しい活動」をつくろう！

新たな担い手を増やすには、まず「やってみたい！」と思える活動であることが大切。

②いろいろな人の「力」を活かしていこう！（本当の意味での「協働」を）  
いかに多彩な人々が各々の特長を活かして協力できるかが、協働の「肝」。

③「継続」の力を、次の世代への「バトン」でつないでいこう！

地域の活動では次世代への「バトンタッチ」を強く意識することが求められています。

④みんなの“思い”を共有するための「学習」の場を大切にしよう！

“思い”を共有し、共通の目標をめざして役割を分担していけるよう話しあう「学習」の場を継続してもつことや、それを発展させて夢を描く「プラン」づくりなども効果的です。

⑤しっかり「伝えていく」ことにも力を入れよう！

多くの人に関心を持っていただく工夫をし、知ってもらおう工夫をしましょう。以上の提言をもとに、今後も地域の皆さんとともに考え、発信する場を作っていきたいと思っております。



コスモちゃん  
須磨区社会福祉協議会  
イメージキャラクター